

# 株式会社ジェイコム大田

## 放送番組審議会 議事録

平成 30 年度 (2018 年度) 株式会社ジェイコム大田放送番組審議会は、2019 年 2 月 5 日 (火) ジェイコム大田局にて開催された。

### 【放送番組審議会委員】

ご出席	ご欠席
千葉 茂 様	政木 純也 様
桑田 健秀 様	小山 君子 様
平本 隆司 様	
市川 一 様 (代理)	

### 【事業者：株式会社ジェイコム大田】

代表取締役社長	柳田 聡
大田局 地域プロデューサー	横内 智実

### 【事業者：株式会社ジューピターテレコム 東京メディアセンター】

東京メディアセンター長	日沖 英明
副センター長	藤原 直軌
東京大田制作チーム長	大河原 明子

### 放送番組審議会の会長及び副会長の選出

会長 千葉 茂 様 副会長 平本 隆司 様

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告

## 【質疑応答・意見交換】 進行：千葉会長

### ・番組における新しい言葉への対策

#### 委員

「レガシー」「eスポーツ」などの新しい言葉は視聴者によってはわかりにくいのではないか。J:COM のこうした「新しい言葉」への対策について教えていただきたい。

#### 事業者

ニュースを制作する際、中学 2 年生程度が理解できる言葉の使用を心がけている。

新しい言葉や難しい言葉は、ニュースの冒頭で解説する、テロップで注釈を入れる、わかりやすい言い回しを使うなど、誰もが理解できる表現を目指している。

### ・2020 年前後の地域スポーツ

#### 委員

ニュース番組をはじめ、高校野球やサッカーなどのスポーツ番組など様々なジャンルの番組にチャレンジしていると感じた。スポーツを専門として活動している私としては、2020 年以降、オリンピックで刺激を受けたあとのサポートが心配。子どもたちが 2020 年以降も様々な地域スポーツに参加できるような継続した情報提供をお願いしたい。

企業の健康経営や健康管理がピンポイントでは行われているが、それらを包括してサポートできる体制が一緒に作れないだろうか。

大田区で開催されるオリンピック競技の「ホッケー」について、民間レベルで地続きの品川区、港区と組んで機運醸成していく考えなので協力してほしい。

#### 事業者

今年度大田区のオリパラ機運醸成事業を受託し、ホッケー体験教室を実施してきたので、民間の連携にも可能な限り協力させていただく。

#### 事業者

2020 年以降のスポーツの動向は各競技団体でも課題になっている。J:COM としては、2020 年以降も力を入れて取り組んでいきたいと考えている。東京オリンピックに出場できない世代のスポーツやパラリンピックで注目を浴びるパラスポーツ団体との協力体制を、2020 年以降も継続していきたい。

#### 委員

マイナースポーツやパラスポーツは、2020 年以降のために地域で受け皿を作っておくことが大切。

## ■ 防犯防災について

### 委員

防火・防災を担当する行政機関の立場として、地域密着の観点から、もう少し詳細な危険地域の情報が出せないだろうか。消防署からの情報が必要であれば提供していきたい。

### 事業者

デイリーニュースでは、火災が起きやすい時期のお知らせや注意喚起を行っている。また、台風や集中豪雨による冠水が想定される場所などの情報は、防災機関と連携して普段から喚起を促したい。

昨年発生した北海道胆振地震の際は、ジェイコム札幌も停電しスタジオ復旧の目処が立たなかったため、関東のスタジオから遠隔で災害放送を行った。また、停電の影響でテレビをご利用できない方のために、スマートフォンの地域情報アプリ「ど・ろーかる」に誘導して情報を発信した。今後も J:COM グループで連携しながら、行政とも協力・連携して災害放送を行うのは J:COM の使命だと考えている。

## ■ シニア層に向けた番組作り

### 委員

高齢化が進む中でシニア層を対象にした番組作りが良いのではないか。

「わたしの大田百景」はとても興味深く拝見したが、撮影場所の紹介や経路案内を入れるなどすると更に良い。終わったイベントを紹介するだけでなく、今後行われるイベント情報を紹介する番組など、テレビから情報を得ることが多いシニアの行動につながる情報提供を行っていただきたい。

### 委員

身近な地域情報ならでは番組、見た人の行動につながる番組を作ってもらいたい。

### 事業者

おでかけ情報コーナーなど、ニュースに付加価値をつけることをデイリーニュースなどで力を入れていきたい。

ターゲットを明確にした番組づくりを心がけたい。

以上